



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 関山 巧 定価 1部44円 題字 井戸知事

消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子

突撃取材

この男達の夏はあついで!

〜第二回神崎郡操法大会〜

平成二二年六月二十八日(日)に神崎郡市川町西川辺「川辺小学校グラウンド」において、第二回神崎郡消防操法大会が開催されました。全国でもトップレベルの実力を誇る神崎郡の操法を一目見ようと『兵庫消防』取材班は現地へ向かいました。

当日は天気恵まれ、暑い中朝早くから神崎郡三町(神河町・市川町・福崎町)の消防団が集合し、松本日出一・神河町団長の「それぞれの思いを胸に魂の操法を期待します。」という言

葉で開会しました。大会には、各町大会を勝ち抜いた選抜チーム一隊(小型動力ポンプ六隊・消防ポンプ自動車五隊)が出場し、各地区から駆けつけた多数の応援団が見守



操法の様子

る中、熱戦が繰り広げられました。何とも言えない緊張感の中、どのチームも機敏で美しく、計算しつくされた素晴らしい操法を披露され、客席からの応援にも一層熱が入り、全ての観客に大きな興奮と感動を与えていました。 今回の大会では、接戦の結果、小型動力ポンプの部では、福崎町消防団庄分団が、消防ポンプ自動車部では福崎町消防団新町分団が優勝の栄冠を獲得しました。

大会結果

(小型動力ポンプの部)

優勝 福崎町消防団庄分団

二位 神河町消防団

三位 作畑新田分団

三位 福崎町消防団福田分団

(消防ポンプ車の部)

優勝 福崎町消防団新町分団

二位 神河町消防団越知分団

三位 神河町消防団大畑分団

表彰式後、優勝チームの指揮者のコメントをいただきました。



開会式

福崎町消防団 庄分団指揮者、難波知志さん(小型動力ポンプの部優勝)

練習のなかで辛かったこと、嬉しかったことは

教えて貰ったことがうまく出来なかったときなど、とても辛かったが、他の分団員が励まし、声をかけてくれたので頑張れた。

印象に残っているエピソードは 昨年末では、町大会で優勝して郡大会へ出場していたが、今年準優勝という結果で郡大会に臨んだ。そんな中で、絶対に勝つんだと決め一生懸命練習し、みごと優勝できて良かった。

今の気持ちを一言

ヨッシャー!

福崎町消防団 新町分団指揮者、安積一郎さん(消防ポンプ自動車部の優勝)

このチームの強みは

団体競技なのでチームワークが大切だ。それを上手く取りまとめられず苦戦したこともあったが、周りの指導者の方々が支えてくれたので良い結果に繋がったと思う。特に、昨年の全国大会で準優勝した神河町に勝つことは、大変嬉しい。

応援して下さった方々へメッセージは

連日連夜、練習を見に来て下さった皆様に対しては、優勝す

ることが一番の恩返しになると思っていた。達成できて本当に良かった。ありがとうございます。

福崎町消防団 城合英之団長 今回の良い結果を受けて、団員達に一言

消防団員は家庭も仕事も犠牲にして地域のために頑張っている。今回良い結果に繋がったチームもそうでなかったチームも、みんなが一生懸命訓練にはげんでくれていたことは、本当に嬉しいことだ。

今回優勝したチームはこれに、驕ることなく、来年の県大会で優勝しそして全国日本一になることを目指して欲しい。



新町分団



庄分団

今回取材した神崎郡だけでなく、県下には意欲的に操法に取り組んでいる消防団がたくさんあります。それぞれの消防団の

平成二二年度 消防団長名簿

各地区の団長を御紹介します。

(平成二二年度七月一日現在、敬称略)

Table listing fire district names and their respective leaders across various regions like 神戸地区, 阪神地区, 東播磨地区, etc.

わがまちの団長さん

「頼もしい団長」

淡路市消防団

向内 良夫 団長



当市は、兵庫県の南部、淡路島の北端から中央部にかけて、島の北側約三分の一を占め、明石海峡大橋を通じ本州と隣接する、淡路島のウエルカムシティ

地区 区 通 信

「丹波地区消防団連絡協議会を開催して」

平成二一年度 丹波地区消防団連絡協議会を六月五日、丹波市立休養施設「やすら樹」において開催した。

当協議会は、篠山・丹波両市の消防団幹部で構成、両市の消防長、県の関係者を交えて年一



講演会の様子

今回は、総務省消防庁の「消防団員確保アドバイザー派遣制度」を活用し、近年、サラリーマン団員が増加する中で、消防団活動の更なる充実を図ることを意図して講演を依頼し、松山市消防局総務課専門監の岡本桂成氏の派遣をいただき、「消防団組織・制度の改革」も多様な人材の確保を目指す」と題し講演いただいた。同市は、女性消防団員採用や消防団協力事業所制度の導入等積極的に取り組ま

です。淡路市消防団は、平成一七年の淡路市誕生と同時に発足し、現在は五地区、二五分団、消防ポンプ自動車八台、小型動力付積載車八二台、団員数一、八八七人体制で日夜消防活動に精励しています。

向内団長は、昭和四七年に旧津名町消防団に入団され、平成一七年に津名地区団長、平成一九年には副団長に就任され、この度平成二一年度より淡路市消防団長を拝命されました。日頃の団長は、いつも明るく穏健で、合併して新しくなった

篠山・丹波市消防団

回開催しており、住民の幅広いニーズに対応できる消防体制の組織強化に努めると共に、広域的に迅速な応援体制を確立するための情報・意見交換の機会として、大変重要な会となっております。

団の調和を特に大切にされます。団歌の製作にあたっては、作詞をかって出たり、訓練や火災現場でも、常に地元の団員に声を掛けるなど、各地区とのコミュニケーションを欠かしません。

また、消火活動はもとより、火災予防・防火意識高揚にも積極的に取り組まれ、自主防災組織の必要性を地域に呼び掛けるなど、多方面に目を向けた活動が、より一層の消防力強化に繋がっています。

今年四月に団長を拝命されたばかりですが、すでに団員や関係機関からの信頼は厚く、災害から市民の生命、身体及び財産を守る地域防災リーダーとしての期待は高まるばかりです。



講師を囲んで (前列右より3人目)

て採用した「郵政消防団員」「学生消防団員」「事業所消防団員」の機能別消防団員の加入により、各地域の実情に合わせた消防団組織の構築も行えるようになったとのこと。心熱く語られる講師に、両市より大変多くの質問、意見等が出て、また、的確なアドバイスをいただき、大変充実した会となった。機会があれば、パート2をお願いしたいと思うところである。後には、意見交換会も行い親睦を深めることができた。また、

「消防団員として生きる」

稲美町消防団天満南分団 六分一部 西本 竜也



私の住む稲美町は、播磨平野東部の東播磨地域に位置しており、東は神戸市、南は明石市、西は加古川市、北は三木市と四市に隣接している人口約三二、〇〇〇人の町です。私は平成十年にこの町の誇り高き稲美町消防団に入団し、地域住民の生命と財産を火災や災

われら若手消防団員

消防団に入団して

篠山市消防団第二一分団 班長 白井 亮平

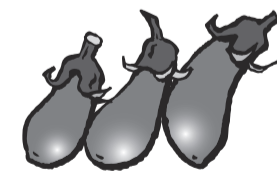


私が、消防団に入団したのは、平成一七年四月のことでした。地域に生まれ地域で育った者として、

害から守るため、先輩団員方とともに消防団活動に励んでいます。

本町の特徴として数多くのため池が存在するため、老朽化したため池については、大雨による堤防決壊などの災害の危険性があり、中小河川、排水路についても増水による被害が考えられます。このような大災害が発生する危険が生じた際には、常備・非常備消防の連携による対応だけでなく、婦人消防隊や自治会ごとの自主防災組織においても迅速かつ積極的な対応が求められます。私たち消防団員には、自らの訓練の充実とともに自主防災組織が行う防災訓練の支援や地域住民の防災意識の啓発も必要であると強く感じています。

近年、消防団員の確保が困難な地域もあり、消防団活動の低下が危惧されています。地域住民の生命と財産を火災や災害から守るため、今一度消防団組織の役割を認識し、組織の更なる強化と人材の確保に努めなければなりません。私たち若手消防団員が、先輩団員方の築いてきた伝統を大切に守り、次世代の模範となるよう、これからも高い志と熱い心で使命を全うしていきたいです。



は、消防団に入団しなければならぬものと思ひ、また、父も入団していましたので、入団を勧誘されれば入団するつもりでした。そしてそれは、入団する約半年前に突然やってきました。当時一九才であった私に、自治会の中でどうとう順番が回ってきて、声がかかりました。近所の若い者の中では、一番の上級ではなかったのですが、退団する方の交代として声がかかったのです。入団するつもりはあったのですが、少し早いような気もして入団を渋っていました。が、何よりも昔から知っていた近所の先輩方が入団されてしまったので、最終的には、安心して入団することができました。入団してからは全くわからないことばかりでしたが、いろいろ

と教えてもらいうちに興味が出てきて、そのうちに操法大会があつて出場してから、消防団活動に力が入るようになりました。今年度は、順番で班長を務めています。班長として精一杯務めたいと思っています。そして、地域の方に「消防団は頑張っている」「消防団はな」と言ってもらえるようにがんばりたいと思っています。

消 防 団 服

甲 種 日毛・帝人・東レ団服・作業服・制帽
乙 種 刺子・木綿

ハッピー・ズボン・腹掛・革バンド

附属品一式

キンバイホース 兵庫県特約店

株式会社 三 浦 消 防

姫路市竜野町1丁目1番地
電話 (姫路) 92-0447
(0792) 98-8663

「こんにちは！兵庫の消防団です」



http://www.hyogoshoubou.jp/

「消防団今昔」

相生市消防団副団長
松原 季則



ペーロン祭で親しまれている相生市は、兵庫県の南西部に位置し、北部は西播磨丘陵立自然公園、南端は瀬戸内海国立公園

に指定され、豊かな自然環境に恵まれた風光明媚な地域です。当市消防団は、昭和二十九の町村合併に伴い、消防団も統合されて誕生しました。その後、四回の機構改革等を重ね今日に至っていますが、当初二六あった分団は統廃合により、現在では一五分団となり、団員数も九〇二名から五二〇名になりました。私は、昭和五二年に入団して早や三二年が経過しました。入団当初は、分団の消防車両には無線機が装備されておらず、災

害出動時の現場活動は困難を極めました。しかし現在では通信機器も整備され、指揮系統もスムーズで速やかに活動ができ、分団間での情報共有も可能となりました。過去、当市では、幾多の大規模な風水害が発生し、昭和四六年には、六時間余りで二三〇ミリの集中豪雨に見舞われ、崖崩れ三〇カ所、道路・河川の決壊は二〇〇カ所を越え、犠牲者一人を出した未曾有の災害の記憶があります。私は昔の教訓を生かして、地

域住民と消防機関が協働し、危険箇所の合同調査を行い、市内のハザードマップを策定することを進言しました。現在では、災害に強いまちづくりを目指して自治会と消防団合同で災害図上訓練を実施し、防災意識の向上を図っています。『自分の身は自分で守る。素早い避難。』今後も市民とコミュニケーションを図りながら、地域に密着した消防団活動に精進したいと思っています。

消防団今昔

60

「郷土愛」

神戸市西消防団
榎谷支団副支団長
小池 信男



昭和五六年入団当初、私の所属する消防団は神戸市榎谷消防団という名称でしたが、昭和五八年一〇月、七消防団（玉津、伊川谷、榎谷、押部谷、平野、神出、岩岡各消防団）が統合し神戸市西消防団（支団制）となり、神戸市榎谷消防団は神戸市西消防団榎谷支団となりました。

昭和五六年入団当初、私の所属する消防団は神戸市榎谷消防団という名称でしたが、昭和五八年一〇月、七消防団（玉津、伊川谷、榎谷、押部谷、平野、神出、岩岡各消防団）が統合し神戸市西消防団（支団制）となり、神戸市榎谷消防団は神戸市西消防団榎谷支団となりました。榎谷支団は、四分団一〇班総勢一四五名ですが、西消防団（七支団一、四三〇名）の中では最少人員の支団です。私は、一二年間の分団活動を経て、平成五年に支団本部役員に任命され、平成二〇年に榎谷支団副支団長

に昇任しました。私の入団する直前までは活動範囲が榎谷町のみでしたが、榎谷町を挟むように北西側に西神住宅団地、次いで南側に西神南住宅団地が造成され、榎谷町はもとより、西神住宅団地のほぼ南半分と西神南住宅団地全体が現在の守備範囲となっています。例に漏れず、サラリーマン化で区外に就労している団員が多く、土曜・日曜はまだしも平日昼間の出動団員が少なくなっている状況ですが、平成二〇年四月に五名の女性消防団員が誕生し、女性ならではのソフトな活躍が期待されます。忘れられないことがあります。阪神淡路大震災において、一七日の昼から翌朝にかけて、西消防団は第一次応援隊九個分団五一名、第二次応援隊一三個分団九九名が応援隊として長田区へ出動したことです。私は、後発隊として出動しました。プールを水源として長い区間を中継して消火活動を行ったのですが、距離が長いため放水、停

止が難しく、出火から時間が経っていたこともあり周囲が火の海状態で、目の前で延焼して焼け落ちる建物を見ていると思うように水が出ないという経験をしました。非常時の活動はやはりマンパワードと思っています。機械力は強大ですが、微力な一人の力もチームワークにより一つの目的に向かえば負けないと思います。時代の流れで組織や、機材、活動はこれからも変わって行くでしょうが、消防団は、生まれ育った地域を自らの手で守っていくという郷土愛護の精神を持って、地域の防災リーダーであること。そして、ひと目で消防団とわかる、あの法被がシンボルであることは昔も今も変わらないと思います。



平成10年頃の榎谷町



昭和35年当時の榎谷町

また、六月一四日に実施された「第二八回網干消防団消防操法大会」には六分団から各一隊計六隊が出場し、日頃の訓練の成果を披露しました。その他、年間を通して団員の資質の向上を図るため、「新入団員教育訓練」、「応急手当指導員の養成」、「消防団幹部教育」等を実施し、知識・技術の向上と士気の高揚を行っています。

近年市民の消防団に対する期待は増大するばかりで、網干消防団もその期待に応えるため、「災害活動」に、「予防広報活動」に熱意をもって取り組んでおり、住民の信頼を得ています。

地区通信

伝統と重工業の町 網干

姫路市網干消防団

姫路市網干消防団は、一本部六分団で構成され、姫路市の南西部約二五平方キロメートルを管轄面積としています。南は瀬戸内海に臨み、海岸線は、化学工場が林立し、日本有数の臨海地区特別防災区域に指定されています。また、「不生禅」を説いた盤珪国師ゆかりの「龍門寺」、「雪の朝 二の字二の字の下駄の跡」という句で有名な江戸時代の俳仙田捨女ゆかり

の「不徹庵」など歴史のある建物も多く、秋には提灯行列や、二四ヶ村の屋台や榎尻が勇壮華麗に練り出す魚吹八幡神社の秋祭りが行われ、近代的且つ歴史文化的に多彩な特色をもった地域です。そのような特色のある地域の中で、六つの分団の結束は固く、網干消防団の一年は、創設以来伝統的に行われている一月一日の「姫路市網干消防団出初式」に始まり、文化財防火デー大訓練、消防署・消防団合同水防訓練、網干消防団消防操法大会と各種の訓練や行事を通して分団間そして消防署との連携を密にし、地元住民に安全と安心を提供しています。



そのような特色のある地域の中で、六つの分団の結束は固く、網干消防団の一年は、創設以来伝統的に行われている一月一日の「姫路市網干消防団出初式」に始まり、文化財防火デー大訓練、消防署・消防団合同水防訓練、網干消防団消防操法大会と各種の訓練や行事を通して分団間そして消防署との連携を密にし、地元住民に安全と安心を提供しています。



21年出初式はしご演技



新入団員教育



魚吹祭り

北から南から

「ひと・まち・自然がきらめく

清流文化都市」を目指して

加古川市消防団

加古川市は、兵庫県南部に広がる播磨平野の東部を流れる県下最大の一級河川「加古川」が瀬戸内海に悠々とそそぐ下流域に位置しています。肥沃な沖積平野と広大な印南野台地、そして温暖な気候に恵まれ、古くから山陽道の宿場町として栄え、東播磨の中心地として発達してきました。海岸線には、我が国最大の製鉄会社があり、播磨臨海工業地帯の一翼を担っています。また、内陸部には、伝統を生かした靴下・建具など特色ある地場産業が営まれ、大型量販店などの商業活動も活発に展開されています。その一方、国宝などの多数所蔵する聖徳太子ゆかりの「鶴林寺」などの神社仏閣やのどかな雰囲気漂う農村



加古川俯瞰

風景が残る市北部など、自然が満喫できる、文化と自然の香り高いまちです。また、加古川兩岸の河川敷には、災害発生時に災害活動用、物資輸送用道路となる緊急用河川敷道路(防災道路)が整備されており、平時にあつては、日本陸連公認の馬拉ソンコースとして「加古川馬拉ソン」、「郡市区対抗駅伝大会」が開催されるなど「ウェルネス都市」として「ひと・まち・自然がきらめく清流文化都市」を目指しています。



消防団林野火災訓練

れ、防火消防に重点を置く新消防団として結成されました。昭和二三年に加古川町消防本部及び加古川町消防署が自治体消防として発足されたことに伴い消防団も加古川町消防団一団五分団、団員数三五〇人に改められました。この組織が現在の消防団の原形であります。その後、町村の合併により昭和三四年一市一団二分団、団員数二、五〇〇人に統合され、加古川市消防団と改称されました。昭和五五年に志方町の合併、平成一八年には新たに女性分団を設立し、現在、一市一団一九分団一、一九六名(定数一、二〇〇名)で構成されています。

し、長時間の戦線となりました。この火災の活動に対し常備消防隊及び消防団がそれぞれ反省会及び検討会を実施し、常備消防隊と消防団の連携活動の重要性が双方からあげられました。消防のプロである常備消防隊の技術、資機材と地域に地形や状況に精通し、常備消防の四倍もの人員を保有する消防団が密接に連携することで、更なる消防技術と能力が向上することができます。まずは、分署、分団単位で会議・訓練・研修を実施し、親睦を深めるとともに信頼関係を築き上げ、常備消防と消防団が密接な連携活動ができるような安全管理を含めた活動要領の作成を現在検討しています。

編集後記

暑い暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

日夜消防業務に携わっておられ皆さまにとっては、厳しい季節ですが、体調には十分にお気をつけ下さい。

さて、今月号の一面には第二回神崎郡消防操法大会、平成二一年度団長名簿について掲載しております。

また、消防団今昔には相生市消防団副団長松原季則さん、神戸市西消防団榎谷支団副支団長小池信男さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

今回、久々に「兵庫消防」の編集担当が現地へ向かい神崎郡操法大会の取材をさせていただきました。ご協力くださいました関係者各位に厚くお礼申し上げます。

次回の取材はあなたの街における邪魔するかもしれませんよ。

- 一、自ら活動して 他を動かさずは水なり
- 一、常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- 一、障害に激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- 一、自ら潔くして他の汚れを洗い清濁併せ容るるの量あるは水なり
- 一、洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霰と化し凝っては玲瓏たる鏡となり 而も其性を失わざるは水なり

これは、戦国の武将「黒田如水(黒田官兵衛考高)」の作と伝えられています。加古川を悠々と流れる水、そして、私たち消防人にとって「欠かすことのできない心強い味方」でありながら時には災害として立ちのぼる水、この「水五則」を訓として、あらゆる災害に対し、柔軟に迅速かつ確実に対応できる組織でありたいと考えています。



美と力を備えた
新しいテクノロジーが
社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学する モリタです。

株式会社 **モリタ**

本社 〒544-0003大阪市生野区小路東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119 FAX06(6754)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山

- ・操法最適ホース：コンベVシリーズ
- ・小型動力ポンプ：ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車(標準型・全自動型)
- ・消防ポンプ自動車(モリタ)
- ・消防用資機材全般

西垣消防器具製作所
669-5213 兵庫県朝来市和田山町玉置461
TEL:(079)672-3131
FAX:(079)672-3132
E-mail: fp-nishigaki@eagle.ocn.ne.jp